

『第13回 教育と安全フォーラムinひろしま』を終えて

実行委員長 山崎やよい

今年の教育と安全フォーラムも、多くの皆様のご参加をいただき、実りある研修として盛会に終了することができました。

午前は、東北工業大学教職課程センター教授 小川和久先生から「リスクある環境への適応-交通安全教育と防災教育の共通性-」と題したご講演をいただきました。交通安全教育と防災教育の共通性を示しながら、児童生徒自身が主体的に課題解決するリスク管理能力を育成する安全教育の重要性についてご教示いただきました。

体験交流では、参加者が11グループに分かれ、学校行事の場面で判断や対応に反省や課題が残った事例を中心に“ひやり ハット”体験を共有し交流を深めました。参加者からの様々な事例に対して、助言の先生方から、丁寧な指導・助言をいただき、事故防止の取組と教育、いざというときに機能する緊急体制の在り方、研修・演習を継続していくことの必要性など、多くのご示唆をいただき、参加者の皆様の危機意識や資質の向上に繋がったと確信しております。

さらに、午後は、県立広島病院救命救急センター長 山野上敬夫先生より「若者が遭遇しうる致死的傷病-内因性疾患と災害による傷害-」と題してのご講演をいただきました。心肺停止とアナフィラキシーショックを中心とした対応について、また、災害による傷病と災害時の医療体制についてはDMATの活動を交えて、過去の教訓を糧に日常の準備と訓練の重要性についてご教示いただきました。とりわけ、救急車要請に際しては「空振りを恐れないで」という言葉は、迅速な対応力、判断力に活かせる学びでした。おかげをもちまして、予想以上の成果を収めて終了することができましたこと、心より感謝申し上げます。

多くの参加者に実行委員も交わり、学校安全について協議することができたことは、ご参加いただきました皆様方とともに、日々の執務の見直しと今後の教育実践に向け、大変有意義であったと感じています。

今後も学校の安全文化の創造に向け、スタッフ一同、参加者の皆様方と共に研鑽を重ねたいと強く心に受け止めてまいります。改めて本フォーラムにご参加、ご協力いただきました皆様へ、心より感謝を申しあげ、報告とさせていただきます。



開会挨拶の様子 2018.1.20.